

## 「生活文化」という言葉を考える

本間伸夫（代表幹事）

言葉の持つ意味を深く把握しないまま、日常生活において、その言葉を使って、お互いのコミュニケーションが成立することはままあることであり、多くの場合それで充分である。

しかし、事と次第によっては、用いる言葉の内容を正確に把握しておかねばならないこともある。それによって、対象とする事柄の内容や領域の範囲に影響するからである。

例えば、新潟県生活文化研究会の「生活文化」とは何であろうか、どこ迄が本会の対象範囲となるのであろうか、と会員の方々は考えられたことが少なくとも一度や二度はあったのではなかろうか。

本会の設立趣意書及び生活文化研究会だより(No.1)には、この点について明確に述べられてなく、“文化にかかわることは極めて広範囲にわたるが、それが生活文化となっても対象の範囲は依然として極めて広い。しかし、特に「生活」で限定する場合には…”となっているにすぎない。

本誌は研究会誌としての創刊号であるので、ここで「生活文化」という言葉の意味を考えてみたい。この言葉の意味を探ることはまた本会の対象の範囲を考えることにもなる。

ある言葉の意味するところを理解する時、外国語に置き換えてみると、より正確に把握できる場合が少なくないので、英語との対応を考えてみたい。それはまた、本会の英語名にも関係するので。「生活文化」そのものの英訳の例は少ないが、たまたま、家政学用語集<sup>1)</sup>には livelihood culture が記されている。この場合、「生活」に livelihood が対応しているが、英語表現辞典<sup>2)</sup>によれば、livelihood は「生計」、「暮らしを立てること」の意味であって、「生活の手段」の意味が強い。「生活」に対応する訳語としては、他に life と living が考えられる。living は livelihood に近く、「生計を立てる」、「(ある特定の)生活様式、生活の立て方」の意味が強い。life にも「生活」、「生計」、「暮らし」の意味があるが、それは「生き方」、「暮らし方」をいうもので「生きるための手段」や「暮らしの立て方」をいうものではない<sup>3)</sup>。

新潟県生活文化研究会が指向する「生活」には、人間の「生き方」、「暮らし方」を基本とし、更に関係する事柄が幅広く含まれることになる。例えば、「生きるための手段」に関わる事項は、生活全体の一部として含まれることになる。以上の理由から、生活文化研究会の「生活」に対応する訳語は life がより適切であると考えられる。

もう一方の「文化」についてであるが、「文化」とは何かと書き始めると一冊の本になると、冗談まじりによくいわれる。試みに、平凡社：大百科事典<sup>3)</sup>の「文化」の項を引くと、次のように記述されている。

文化 culture 日本語の〈文化〉という語は〈世の中が開けて生活水準が高まっている状態〉や〈人類の理想を実現していく精神の活動〉を意味する場合と、〈弥生文化〉というような〈生活様式〉を総称する場合とがある。社会科学の諸分野では第2の意味で〈文化〉の概念を使用するのが普通であるが、この意味における〈文化〉についても定義は多様であり、時代的な変化も見られる。

本会における「文化」は第1の意味に相当する、という程度にとどめ置くのが妥当かと考えられる。難しく考えなくても、「文化」に関してお互いの理解に大きな差異があるとは考えられないからである。多くの人々が常識として考えている範囲を、本会が対象とする「文化」の範囲としたい。

このようにして、本会で使う意味での「生活」と「文化」が結びついた「生活文化」の英訳は life culture となる。そして、会の名前は Society for Life Culture of Niigata となり、会誌は Bulletin of Society for Life Culture of Niigata となる。

以上のごとく、「生活文化」の「文化」は「生活」によって限定されている。この点について、本会の設立趣意書及び生活文化研究会だより(No.1)には、“「文化」を、特に「生活」で限定する場合には、生活の場である地域・風土とのかかわり合いに比重をかけるべきである”と述べてある。これは、新潟県生活文化研究会はその名称のとおり「新潟県」という地域に立脚しており、また、生活を考える場合には、生活の場である地域を抜きにしては殆ど意味がないという二つの意味を訴えているものである。「新潟県」という地域とその風土に立脚して「生活文化」を研究していこうとするものであることを示している。しかし、新潟県にとらわれて「新潟県だけ」とはなりたくない。外からの目、広い目、客観的な目で新潟県を見据え、際立たしていきたいものである。

以上を受けて、簡潔に「生活文化」を定義しようすると、「人間の生き方・暮らし方に関する文化」となる。また、「生活」という言葉の内容から「生活文化」とは「身近な文化」であるとする、思いの他、当を得た言い替えである。その上、本会が指向する、極めて自由度が高く気楽な会という立場からすると、「身近な文化」は似合いの表現である。結局、新潟県生活文化研究会を簡潔に表現すれば、「新潟県を基盤として身近な文化を研究する会」となる。

- 1) 日本家政学会：家政学用語集、248、(1987) 朝倉書店
- 2) 荒木一雄ほか：英語表現辞典、655、(1985) 研究社
- 3) 平凡社編：大百科事典、13巻、318、(1985) 平凡社